

52. マサバ *Scomber japonicus* Houttuyn

図版20

英名 chub mackerel, Pacific mackerel

チホオケアンスカヤ スコムブリヤ

露名 тихоокеанская скумбрия

地方名(北海道) サバ

漢字 真鯖

アイヌ語名 シヤンバ、サンバ、ミミシラテク

【形態】 体は紡錘形でやや側扁し、横断面は楕円形である。背びれは2つあり大きく離れる。体の背側*は青緑色で、黒色または青黒色の斑紋がある。体の腹側*は銀白色で、黒点のないものが多い。全長*は約50cmに達する。

近縁種のゴマサバ *Scomber australasicus* はマサバよりも南方の暖水域に多く分布し、体の横断面がほぼ円形で腹側に多数の小黒点がある。塩サバの加工用に輸入されているタイセイヨウマサバ *S. scombrus* は、背側の斑紋が明瞭な「くの字」形で、その色はマサバやゴマサバより濃い。

【生態】 世界の温帯、亜熱帯の沿岸域に広く分布し、北太平洋西部海域では日本各地の沿岸域を中心としてフィリピンから千島列島南東岸に分布する。資源量の変動が大きく、資源の低水準期には分布域が縮小する。

日本周辺のマサバは太平洋系群、対馬暖流*系群、東シナ海系群と呼ばれる3つの系群*に分けられるが、北海道に来遊するマサバは前二者である。太平洋系群は、産卵場である伊豆諸島周辺海域と索餌*域である三陸から北海道東

部沖の間を夏に北上し、秋に南下する。対馬暖流系群は夏に日本海を北上して北海道西岸やオホーツク海に來遊し、秋から冬に本州沖へ南下する。

尾叉長*^{びき}32~33cm、年齢2~3歳で性成熟*する。資源の低水準期には成長が速くなり、2歳で性成熟する個体の割合が高くなる。産卵期は3~6月が中心で、30万~140万粒を数回に分けて産む。ふ化後満1年で尾叉長が約25cm、2年で約30cm、3年で約33cmになる。寿命は6~7年くらい。

主な餌は動物プランクトンで、ヨコエビ類*、カイアシ類*、オキアミ類*などの浮遊性甲殻類が多いが、成長につれてイワシ類などの小魚も捕食するようになる。